

平成22年度 第2回 海岸工学委員会 議事録（案）

開催日時：平成22年11月10日（水） 18:00～20:00

開催場所：京都テルサ（東館2階中会議室）

出席者：河田相談役，灘岡委員長，後藤幹事長，青木，荒木，池谷，伊藤，今村，有働
大山，岡安，木村，坂井，武若，丹治，津田，畑田，間瀬，松本，三嶋，水谷，睦田，森，
八木，山田，加藤（山本委員の代理），横木の各委員，
小笠原，柿沼，栗山，黒岩，榊山，佐々木，佐藤，重松，鈴木（柴山委員の代理），諏訪，
高木，森屋，山本，由比，渡部の各委員兼幹事

資料：平成22年度 第1回海岸工学委員会（平成22年6月18日開催）の議事録案（資料1），
PowerPoint スライド（資料2）

前回議事録の確認

前回の平成22年度第1回海岸工学委員会（平成22年6月18日開催）の議事録案（資料1）
が確認・了承された。

審議・報告事項

1. 報告事項

- 1) 日本海洋工学会 理事・運営委員交代（大山氏から森屋氏へ交代）
- 2) 出版企画の募集について（8/16：事務局から小委員長へ連絡）
- 3) CEJ出版協力金（Vol.52, No.1より1500US\$に減額）
- 4) H21活動度評価（I:A, II:A, III:A 総合A）

2. 土木学会論文集の再編について（青木小委員長）

今後の土木学会論文集の出版方法について説明があり、審議の結果、以下の通り了承された。

- ・ 過渡期（2009, 2010）：通常号なし，特集号のみ
土木学会論文集 B2（海岸工学） Vol.B2-65(-66), No.1
海岸工学論文集第 56(57)巻
- ・ 統合以降（2011 以降）：季刊化
通常号：
土木学会論文集 B2（海岸工学） Vol.B2-67, No.1, No.2, No.3
特集号：
土木学会論文集 B2（海岸工学） Vol.B2-67, No.4
海岸工学論文集第 58 巻

確認事項

- ・ 通常号の編集体制は，現在の B 部門の編集委員会体制を維持する。
- ・ 特集号の編集は各委員会が責任を持つ。現行の編集体制を継続。
- ・ 通常号と特集号の統一（特にページ数の振り方）
→ 通常号と特集号を通し番号とすることを再編委員会で決定する

- ・今年度は講演会前に海岸工学論文集第57巻がJ-Stage上に公開されたが、来年度からは土木学会会員以外は1年間経過するまでは閲覧できない。
- ・収入面からも今後も海岸工学論文集の紙媒体の出版を継続する

検討事項

- ・No. 1-3に登載可になった方の海岸工学講演会での講演希望を確認する方法と時期
- ・その場合、著者負担金の件など技術的な問題

また、土木学会英文論文集の発刊が、1年間延期されることとなったことが報告された。

3. 海岸工学論文集第57巻 発刊準備状況について（青木小委員長）

第2 段階審査終了時点で293 編の審査通過論文があったが、1 編不採択、1 編辞退で291編となった。また、国際セッションプロシーディングス（15編）が発刊されたことも報告された。

また、来年度の編集・出版形態について、以下のとおり了承された。

- (1) 二段階査読を維持する（3月アブスト受付、10月出版）
- (2) 電子査読を継続する
- (3) 現行の査読体制を継続する
- (4) J-Stage: BIB ファイルの作成要領および提出後の確認過程の改善を図る
- (5) J-Stage はカラー化、冊子体はモノクロ組版を維持する
- (6) 海岸工学論文賞（3編程度）を継続する。また、受賞論文はCEJに推薦する
- (7) 出版経費：組み版・印刷製本(350万円/年),
J-Stage アップロード(40万円/年),
査読システム技術委託(約50万円/年)

4. 海岸工学論文賞候補論文について（後藤幹事長）

候補論文について説明があり（資料2），審査方法・審査結果について了承された。論文賞は以下の論文に決定した。

- 1) 面的波浪水面形状計測法の開発と砕波への適用
著者：三戸部 佑太, 大島 香織, 渡部 靖憲
- 2) 風波スペクトルの飽和度に関連する海面抵抗係数の変動
著者：鈴木 靖, 鳥羽 良明, 鈴木 直弥, 小森 悟
- 3) 消波ブロックによる直立堤での飛来塩分発生量の低減効果に関する現地観測
著者：山城 賢, 吉田 明徳, 日高 倫興, 見國 洋平, 西井 康浩

5. 第58回及び第59回海岸工学講演会の開催（会場など）について（小笠原担当委員，陸田担当委員）

第58回海岸工学講演会（盛岡市，2011年11月9-11日）の準備状況・予算について説明があった。会場（アイーナ 岩手県民情報交流センター）も予約済みである。見学会については引き続き検討が必要であることが報告された。

第59回海岸工学講演会（広島市，2012年11月14-16日）の準備状況・予算について説明があった。会場（広島国際会議場）も予約済みである。予算額は今回の京都とほぼ同じ程度の見積もりであることが報告された。

6. Coastal Engineering Journal について（水谷CEJ編集小委員会小委員長）

- 1) 電子投稿，電子査読システムへの移行完了し、海洋開発委員会からも論文推薦を開始した。今年10月28日時点では，投稿論文71編中15編が国内であり、投稿者が増えている。
また、インパクトファクターは0.692（2008）から1.026（2009）へ上昇した。
- 2) 購読状況については、World Scientific に最新データを公開するよう交渉中であるが、現状では2007年9月末日までのデータから変更無し(Total 141:ただし個人の購読分は含まれていない)。
- 3) 灘岡委員長、柴山CEJ編集小委員会前小委員長の交渉により、CEJ出版協力金がVol. 52, No. 1より減額された。

7. 各小委員会報告（広報：武若小委員長，沿岸域：重松小委員長，地震・津波：今村小委員長，数値波動：岡安小委員長，温暖化：横木小委員長，津波避難WG：岡安主査，企画構想WG：森主査）

広報：武若小委員長

現在，海岸工学論文集は，土木学会図書館（電子図書館）と J-STAGE にて，異なるアクセス制限で公開されていることに関し、今後の海岸工学論文集の公開方法の確認があった。基本的に J-STAGE に従うことが確認された。

沿岸域：重松小委員長

2010年10月18～29日に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）において、沿岸環境関連学会連絡協議会 Liaison Council of Academic Societies on Coastal Environment) の情報を英文で発信したことが報告された。

地震・津波：今村小委員長

平成22年度の活動報告があった。また、現在4つのWG（WG1（被害事例WG），WG2（模型実験WG），WG3（推定手法WG），WG4（対策手法WG））で活動中であることが報告された。

数値波動：岡安小委員長

今年度内に報告書（土木学会刊行）の出版に向けて原稿の整理中であることが報告された。仮題：「数値波動水槽－砕波帯波浪計算の深化と耐波設計の革新を目指して－」

温暖化：横木小委員長

平成22年度の活動報告あった。現在、報告書の取りまとめ中であることも報告があった。

津波避難WG：岡安主査

本年度の海岸工学講演会の前日に「津波避難の現状と今後の避難技術・防災体制」と題したシンポジウムを実施した報告があった。

日時：11月9日（火）18:00～20:30

第一部 18:05～19:35 「避難の現状分析と新しい避難技術研究の紹介」

第二部 19:40～20:30 討論会「今後の防災体制の方向性と発展性」

企画構想WG：森主査

今後の海岸工学講演会・論文集のあり方について提言する目的で、海岸工学講演会参加者・論文集投稿者のニーズを拾い上げるアンケートを実施し、152名から回答を得たことおよび解析の途中経過が報告された。

8. 第46回(2010)及び第47回(2011)水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（重松、陸田）

【第46回】参加者数はAコース109名、Bコース76名であった。

【第47回】2011年8月29-30日に広島大学で行うことに決定した。

Bコース：海洋環境問題に関する内容

9. その他

- ・ Coastal Structures 2011 (Yokohama, 2011年9月5-9日)
- ・ APAC 2011 (Hong Kong, 2011年12月14-16日)

(議事録担当：山田)